

スプレー缶等の取り扱いについて

使い終わったスプレー缶はゴミとなりますが、捨てる際、扱い方を間違えると、爆発や火災など、大きな事故につながりかねません。

今年5月には札幌市において、スプレー缶の間違った「穴開け」作業が原因で2名の方が亡くなっています。また、猿払村においても平成23年にスプレー缶が原因と思われるゴミ収集車の火災が発生しています。

正しくスプレー缶を取り扱うために以下の項目に留意して、またこのような火災を繰り返すことの無いよう皆様のご理解・ご協力をお願い致します。



・保管場所に注意しましょう

スプレー缶はベランダや庭など直射日光の当たる場所や、車の中など高温の場所、また火気の近くには保管しないようにしましょう。

高温になることにより、破裂、爆発の恐れがあります。

・火気の近くでは使用しないようにしましょう

ほとんどのスプレー缶は可燃性ガスが使われているため、火を使う場所で使用すると、引火する危険性があります。

火の気の無い、なるべく風通しの良い場所で使用するようにしましょう。

・穴開け作業は屋外でしましょう

ガスは空気より重たいので、たとえ窓を開けていても、ガスがたまってしまって火災の原因になります。必ず屋外で行うようにしてください。

また、穴を開ける際の火花で引火する場合がありますので、ホームセンターなどで市販されている穴開け器を利用すると便利です。

○使用済みスプレー缶の正しい処理の仕方

- 1、中身のガスを残さず使い切る（噴射音が完全に消えるまで）
- 2、缶がカラになったか確認する（振って音がしないように）
- 3、穴を開ける（屋外で実施すること）
- 4、ゴミに出す（燃やせないゴミへ）

※ 穴を開けるのが不安な方は、猿払支署でも対応します。

使い切ってから穴を開けてね！



■ なお、ご不明な点がございましたら【消防署猿払支署予防係TEL 2-2119番】までお問い合わせ下さい。